

五色は人の目をして盲ならしむ。五音は人の耳をして聾ならしむ。
五味は人の口をして爽ならしむ。馳騁畋獵は人の心をして狂発せしむ。得難きの貨は、人の行をして妨ならしむ。是を以て聖人は、腹を為して目を為さず。故に彼を去てて此れを取る。

【大体の意味内容】色彩は人の目を惑わせる。音楽は人の耳をだめにする。手のこんだ料理は人の味覚をそこなう。乗馬・狩猟などの娯楽は人の心を発狂させてしまう。手に入りにくい珍しい宝は、人の善行を妨げる。それゆえに聖人は、腹を充実させることを大事にし、見た目の美しさと味わいとか香といった感覚的なことを優先させたりはしない。そうすることで、感覚的な快樂は捨てて、実質的本質的な力で、我が身を満たす。

人間が作りだしてきた様々な文化をすべて否定するかのようなの部分には、あまり賛成できませんが、こう考えてみたらよいのかなと思いました。もしもそうした文化が全くない、自然だけの世界に放り出されたとしたら、私たちは生きていけないのでしょうか。

決してそんなことはあられません。食べられるものを食べ、その食材から出てくる味や香りを楽しみ、自然の世界が織りなす光や色彩をあじわい、鳥の声や風の音、水の音にうつろいするのこともできるでしょう。またそうした自然の色彩や自然の音から、よいことの前触れとかよくなることの兆候を、知ることもあってもいいでしょう。

人間が備えている能力を研ぎ澄ませれば、人工的に作り出されたものが何もなくても、充実した生活を営むことが出来る。

そのような生命力を重視せよということが言いたいのでしょ。